

HOME

当財団について

奨学金を希望される方

新着情報・ニュース

2020/04/01

公益財団法人 北田奨学会記念財団は本日より「公益財団法人 福岡奨学会」に名称変更します。

2020/03/27

2020年度の奨学金給付についての募集要綱を発表しました。なお、書類提出期限は2020年5月1日までとなっております。

ダウンロードコーナー

奨学金給付申請書などをこちらからダウンロードできます。

・奨学金給付申請書

当財団設立の背景、目的、組織案内などをご案内いたします。

>>福岡奨学会とは

奨学金事業について

当財団で実施している奨学金事業を紹介いたします。

>>奨学金事業について

ご寄付のお願い

当財団では寄付を募集しております。

>>ご寄付のお願い

奨学金事業概要

- 募集人数 / 若干名
- 応募資格 / 福岡県内に居住していて、同県内の高校を卒業した大学新一年生。（大学は国内にある四年生大学に限ります）
- 給付金額 / 月額3万円（年間36万円）
（原則として返還を要しないものとします）
- 給付期間 / 在学校の定められた修学年限
- 提出書類 /
 - 1) 給付申請書 ^{指定様式あり}「申請書類ダウンロード」より取得して作成すること
 - 2) 進学する大学学長の推薦書 ← 二つあり用紙は別提出不要
 - 3) 卒業した高校の調査書または成績証明書
 - 4) 扶養義務者所得証明（市町村発行のもの）または源泉徴収票
- 選考 / 大学教授など有識者で構成された選考委員会で厳選に選考します。

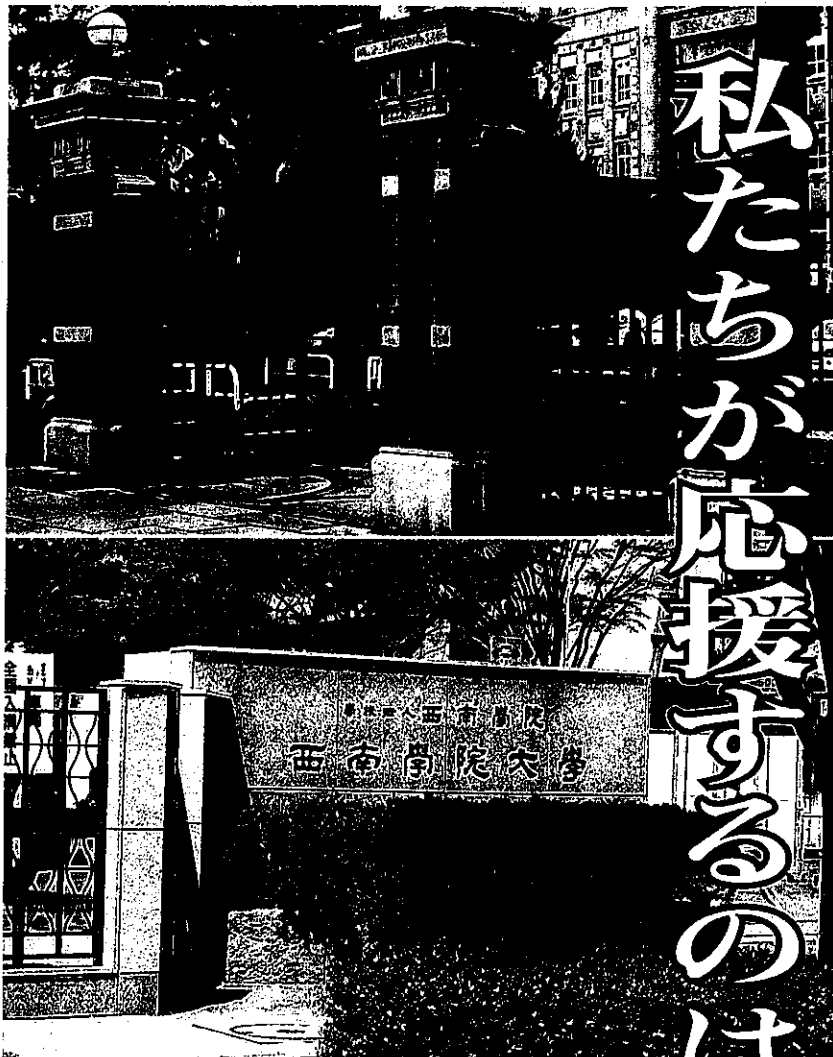
お申し込み

※他奨学金との重複受給を妨げませんので、早めの準備をお勧めします。

大学受付期限: 2020年5月8日(金) 必着(郵送申請のみ)
 学生支援課経済支援係までレターパックプラスにて郵送すること。

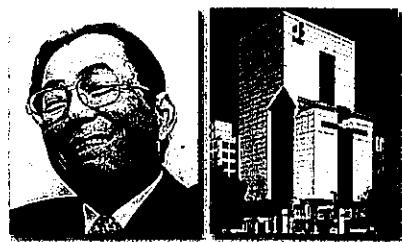
以上です。

私たちが応援するのは未来です。



公益財団法人

北田奨学会記念財団



故北田光男氏とベスト電器

北田奨学会記念財団は、あなたの未来と地域社会の発展に貢献していきます。



誕生の歴史

北田奨学会記念財団は、株式会社ベスト電器を創業した故北田光男氏が、私財を提供して設立した財団です。故人は、学生のころ、昼間は働いて、夜、学校に通うなど、大変な苦勞をしながら学業を成し遂げました。その後、中国東北部（旧満州）で活躍していましたが、昭和二十年（1945年）の八月、日本が太平洋戦争に敗れての終戦、その結果、全ての財産を失い、家族を連れて命からがらの逃避行、翌二十一年の十月、どうにか博多港に辿り着きました。もともと熊本出身ですが、妻の実家が福岡にあったため、ここに身を寄せて無一文からの生活をスタートさせました。

福岡は、前年六月十九日のアメリカ空軍による大空襲で一面焼け野原でした。仕事なんぞあるはずもありません。故人は占領軍キャンプでの草むしり、食堂での皿洗いなどなど、辛酸をなめながら一家を支えるために働き続けました。日本全体に復興の槌音が響き始めた昭和二十八年（1953年）の九月、遂にベスト電器の前身である九州機材という会社を立ち上げます。この会社が故人の経営魂に支えられてベスト電器に成長したのです。

財団の願い、故人の願い

故人はこういったご自分の体験から、経済的に苦勞している学生の皆さんに少しでも手助けが出来て、その手助けによって、学生の皆さんが、より多くの勉学の機会を得て、そして、有為の人材として社会に巣立つことが出来たらとの願いを込めてこの財団を設立したのです。

したがって、この財団は、創設者である故北田光男氏の人生哲学、キタダスピリットを継承していき、これを少しでも世に広めていきたい、学生の皆さんに知っていただいて、そして、これからの長い人生の糧になれば、こういう願いも持っています。

故人がこよなく愛した言葉、座右銘は、イギリスの著述家サミュエル・スマイルズの「HEAVEN HELPS THOSE WHO HELP THEMSELVES」つまり、天は自ら助くるものを助く、でした。

人を頼るな、自分の力で自分を助けなさい。自分でなし得る限りの努力をなさい。そうすれば、天も君を助けてくれるでしょう、ざっと、こんな意味でしょうか。

スマイル（1812年～91年）の原著「SELF HELP・自助論」は明治の初期、世界的ベストセラーになって、わが国でも福沢諭吉の著書「学問のすずめ」とともに明治時代の二大啓蒙書として人々に広く読まれました。故人は学生時代にこの書にめぐりあって痛く感銘を受け、一生の座右の銘にしたのでしょう。一に努力、二に努力、三にも努力、故人の人生は努力の積み重ねでした。

故人の思いが、奨学金に籠もっているのです。

事業の内容・奨学金

奨学金は給付です。返済の必要はありません。申し込み資格は、福岡県内の高等学校を卒業して、国内の大学に入学した新一年生で、行いが正しく、かつ学業成績が優れている学生となっています。もちろん経済的に困っている、これが前提です。

給付金額は月三万円、年額三十六万円です。

他奨学金との重複は妨げません。申し込み期限は毎年四月末日、申し込みに必要な書類は

- ①奨学金給付申請書
- ②在学する大学の学長または学部長の推薦書
- ③卒業した高校の調査書または成績証明書
- ④扶養義務者の所得証明書となっています。

また財団は、財団活動を広げるためにいろんな事業を行っています。事業で成果を挙げて、財団本来の目的である奨学活動を広げていこうというもので、書類については公式ホームページをご覧ください。

<http://www.kitadazaidan.or.jp/>

選考・決定・奨学生になったら

選考は大学の先生など有識者五名で構成する選考委員会で選考して、理事会の承認を得て正式の決定となります。決定すれば、よほどのミスを起こさない限り、決められた修学年限、つまり、四年間は奨学金を給付いたします。ただ、義務とまでは言いませんが、多少、守ってもらいたい事項があります。もちろん、学生の本分に背くような行為があったとか、成績が極端に悪くなったとかは給付を打ち切る場合もあります。また、財団は年二回、機関紙「時流」を発行しています。また年一回、夏休みの帰省時期に財団幹部と奨学生の皆さんとの懇親会を催しています。いずれも、財団と奨学生間のコミュニケーションをはかって、財団の意図するところを理解してもらい、ひいては立派な社会人になる糧としてもらえたらとの財団の思いがあるのです。「時流」に対する寄稿、懇親会への出席、是非の協力をお願いしています。

理事長あいさつ

日本が近代国家へと大きく方向を転換したのが明治維新ですが、この維新の原動力となったのは私のふるさと薩摩、鹿児島県です。したがって、この時代、数々の英傑が薩摩から生まれましたが、私が尊敬するのは、やはり西郷隆盛です。ご自分の志が明治新政府の方針に合わないと思えば、あっさり下野して故郷に帰ります。そして、その志のために命を捨てました、その気概に感動を覚えるのです。その西郷に、生前、気脈を通じる、ひとりの武士がいました。橋本左内、幕末の名君といわれた越前福井藩主松平春嶽の家臣でした。薩摩島津藩から将軍に嫁いだ篤姫の夫君十三代将軍家定は病弱でした。時あたかも、欧米の列強は日本に開国を迫って、まさに国難というべき重大局面を迎えていました。家定の跡目を誰に継がせるか、幕府はま二つに割れました。西郷属する島津、橋本属する松平とともに、後で十五代将軍になる一橋慶喜を推し、西郷と橋本は、連携して慶喜実現に奔走しました。結果は大老に就任した彦根藩主井伊直弼によって紀州藩から徳川慶福が十四代将軍になり、敗れた西郷は京から逃れ、橋本は捕らえられ処刑されます。橋本二十六歳、安政の大獄でした。その橋本が現代に蘇っています。福岡市をはじめ、全国の中学校で二年生対象に行われている立志式がそれです。



志（こころざし）を立てよ
有蘭 憲一
理事長

橋本は十五歳の時に「啓発録」を世に問うています。十五歳は武士社会では元服、今の成人式で、橋本は自分が元服を迎えるに当たって、己の守るべき五カ条をこの中で挙げています。この「啓発録」は講談社から出版されているし、松下政経塾でも教材とするなど、現代に返り咲いています。そのうえ、橋本が第三条で説いた立志、志（こころざし）を立つ、が、全国各地の中学校で行われている立志式の源なのです。

志とは自分の信念に基づく、自分の進むべき方向、成し遂げたい目標、こう理解してもらえばよいでしょう。十五歳、中学二年生で立志式に臨み、己の志を立てて、これからの長い人生に対処する心構えが出来れば、橋本左内も「我がこと成れり」と遠い昔より歓喜の拍手を送っていると思います。

男児志を立てて郷関を出づ学、もし成るなくんば、また還らず。山口県妙円寺の僧月性が読んだこの「立志の詩」が維新の起爆力ともなったともいわれています。

志を立てることの人生における重要さは、昔も今も変わりません。志を立ててください。志を持ちましょう。それは若い貴方達の特権でもあるのです。

